

2020阿波おどり開催に向けた検討事項 キョードー東京共同事業体

1. チケット関係

<p>1 チケット料金の工夫</p>	<p>事業収入の核となるチケットについては適正な料金設定が必要である。</p> <p>例年の販売状況を踏まえ、柔軟な価格設定をすることで、団体・一般それぞれの販売数向上につなげる必要がある。</p>
<p>2 販売スケジュールの見直し</p>	<p>今年度の販売スケジュールでは、団体販売・一般販売とも、購入者へのストレスが大きかったように感じる。</p> <p>会期後半にかけて販売率が低下する傾向もあるため、販売開始日時や期間の見直しが必要である。</p>
<p>3 座席割の再構築</p>	<p>有料演舞場は各会場の栈敷席状況から、従来の席割について再検討する必要がある。</p> <p>設置物（信号、植栽）の状況や、前方・後方からの見え方も踏まえた座席割の再構築が求められる。</p>
<p>4 新規席種の検討</p>	<p>今年度は中止により該当日には実施検証できなかったものの、新たに導入したリストバンド型チケットは、注目度の高い席種となった。次年度の実施も視野に入れることに加え、同様に購買意欲を高められる新規席種についても検討していく。</p>
<p>5 チケットを求めやすい環境づくり</p>	<p>今年度は対面販売所の設置が好評であったため、次年度以降についても実施を検討していく。他方、一般販売時の購入方法について煩雑であるという意見が寄せられているため、販売率向上につながるようなわかりやすい案内内容が必要と考えられる。</p> <p>団体販売においても、次年度以降への継続的な顧客としてより丁寧なケアが求められている。</p> <p>また、当日券販売においても同様に、買いやすい環境整備（価格、システム等）を検討する必要がある。</p>
<p>6 チケット特典の拡充</p>	<p>有料チケット購入者へ、県内の観光施設等の優待特典を実施した。阿波おどりと他施設が連動していくことで地域の活性化につながっていくため、次年度以降も参画施設を拡充しながらの実施を検討する。</p>

2. 演舞場関係

1 開催時間の適正化	<p>団体ツアーの誘致や近隣住民からの騒音苦情の問題などを踏まえて、開催時間の適正化に関する検討が必要である。</p> <p>特に2部の終了時間が22時30分と遅いこともあり、県外からのツアーも組みにくく、近隣住民からの苦情も多く寄せられる状況が生じているため、開始時間や公演時間などを総合的に見直す必要がある。</p>
2 棧敷規模の最適化	<p>チケット販売率や収支状況を踏まえ、棧敷の規模や構成、踊りの形態について検討が必要である。有料演舞場についてはどの演舞場を見ても満足度が高い公演を行えるよう、プログラムとともに座席数についても見直しが必要である。</p> <p>また、無料演舞場についても演舞場や公演日により参加連数に大きな差があるため、演舞場の移設や踊りの形態も含めて近隣施設・店舗等の活性化にもつながる方策の検討が必要である。</p>
3 総おどりの活用	<p>総おどりは阿波おどりのメインコンテンツとして認知されていることが再確認され、今後においてもプロモーション戦略の核として活用していく必要がある。そのため、観覧の少ない演舞場での実施により集客を図ることが求められる。</p>
4 混雑の分散化	<p>藍場浜公園、水際公園は露店の出店が特に多く、一般客や踊り連が演舞場への移動も困難なほど混雑した。</p> <p>また藍場浜演舞場に加え周辺には、2つの無料演舞場があるため、例年多数の人が滞留している。安全確保のためには演舞場配置や露店出店場所を見直し、にぎわいを果たせながら混雑緩和の方策を検討する必要がある。</p>
5 体験プログラムの充実	<p>現在の阿波おどりは、棧敷に座って連の踊りを見る見物型観光が中心であるが、観光のスタイルが変化していく中で、もっと体験型の観光スタイルへと進化させていく必要がある。</p> <p>そのため、現在のわか連のような参加型のプログラムをより充実させるとともに、収益の柱とすることができるよう検討を行う。</p>
6 看板広告の再構築	<p>看板広告の価格について、チケット同様に演舞場の設置物も踏まえた上での再設定の必要があると考えられる。協賛プランの練り直し・新規提案と合わせて検討が必要と考えられる。</p>
7 会場ごとの特色作り	<p>チケット購入時に、新規来場者からは公演・演舞場の違いについて多くの問い合わせがあった。演舞場ごとの特色を生み出し、新たな魅力の創出が必要である。</p>

3. 踊り連関係

1 有名連の定義づけ	有名連の定義についてこれまで明確に定まったものはなく、今回の定義についても疑問の声が多数寄せられた。名称も含め誰もが納得できる明確な定義や選考方法を決定し、共通認識を持ってもらう必要がある。
2 有料演舞場優先申込基準の見直し	有料演舞場の観覧者からは、「企業連ばかりが続く状況を改善して欲しい」という要望が毎年数多く寄せられる。そのためお金を払ってでも見たいと思えるプログラム構成となるよう、明確な有料演舞場申込基準の設定が必要である。
3 参加費徴収基準の見直し	<p>今年度の参加費は、より参加しやすいようにするため日額で設定したが、徴収基準（連の区分など）が不明瞭であることや合同連のように1日の中でも様々な形で踊るケースもあるなど、管理が非常に難しい。</p> <p>また合同連については、各連を1つずつカウントするのか、合同連として1連にカウントするのかなど、細かな徴収基準について整理されていない部分もあったため、より明確な徴収基準を再設定する必要がある。</p>
4 プレミアム演舞場の実施	プレミアム演舞場においては、他演舞場で踊り込みを予定している連が多く張付け時点で連を確保することに非常に難航した。踊り込める連が少なかったことにより、出演の間隔が長くなり実施後のアンケートにおいても「期待外れだった」という意見が多数寄せられた。踊り連の確保が困難なプレミアム演舞場を今後も継続するか検討が必要である。
5 張り付けスケジュールの見直し	徳島市外および県外から参加する踊り子もいるため、移動・宿泊手配の負担軽減を考えると早い時期での張り付けの決定が必要である。

4. その他

1 ごみの適正な処理	阿波おどりには非常に多くの人出があり、露店もたくさん出店していることから終了後のごみがひどい状況にあり、路上にもたくさんのごみが放置されている。そのためゴミ箱・ごみステーションの増設や適正な設置、ボランティアで清掃を行ってくれる人たちを増やしていく必要がある。
2 交通渋滞対策の検討	今年度は初日の来場者数が非常に多く、早い段階で臨時駐車場も満車になった。 また、吉野川河川敷からのシャトルバスも非常に混雑したため、運行経路や方法、台数を再点検するとともに、観光バス駐車場の見直しや乗車場所の設置などの対策を検討する必要がある。
3 雨天時の開催場所	雨天の場合は中止判断が非常に難しく、今年度のように台風による中止の場合でも開催すべきだったという意見が寄せられるとともに、東新町アーケードに繰り出したおどり連が警察の取り締まりを受けるなどの問題も生じた。そのため雨天時でも代替公演が行える場所や運営の検討が必要である。